

# 徒然なるままに…33

—三つの「いかす」—



平成27年7月1日  
白鳥小学校 研修部

やっと出せました!

早いもので、今日から7月です。夏休みが見えてくる時期となりました。「今年こそ。」と楽しい計画を立ててられる先生、「今年は、全国大会に徹する。」と覚悟を決めておられる先生など、いろいろでしょう。おそらく、8月には、一段落つくと思っていますが、私のところには、情報が入ってきませんので、何ともいえません。ただ、指導案をはじめ、様々な原稿を提出せよとの要請が何の前触れもなく訪れ、あたふたと仕上げることになることが大いに予想されます。先生方には、できるだけご無理をお願いしないでいいようにと思っていますが、何とも申し訳ありません。

さて、今回は、前回残ってしまった、懸案の「いかす」のとらえ方についてお話しようと思います。遅くなってしまい、申し訳ありません。

市小社研では、問題解決的な学習を目指して、「つかむ」・「ふかめる」・「ふりかえる」の3段階の学習過程を設定しました。しかし、平成20年度学習指導要領改訂時に、中教審答申では、「習得」した内容を「活用」する授業が提唱されました。それを受けて、「ふりかえる」から「いかす」に変更されたというのが経緯です。つまり、学習した内容や身に付けたことを「いか」して、問題解決（本校的に言うと探究）を様々な形で終結させる場面といえるでしょう。

しかし、「いかす」は、社会科内外から、「よく分からない。」という声が挙がっています。では、「いかす」には、どのような意味があるのでしょうか。

「いかす」とは、一つの問いについての探究のまとめをする段階です。問いを立て、その結論を求めて考えることを通して得た認識を表現したり、さらに問うことによって、そこまでの認識を深めたり、広げたりする場です。場合によっては、他の教科や領域とリンクし、次の活動へつながっていくことも考えられるでしょう。

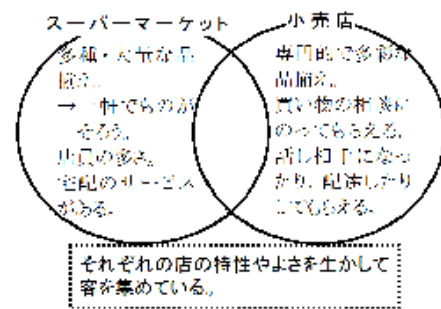
楽観的にイメージをつかんでいただくと、算数科でいう応用・発展的な学習です。基礎的な内容と技能を習得させた後、少し高度にしたり、複雑にしたり、逆の思考にしたりする学習をされることがあるでしょう。例えば、かけ算の筆算において、3けた×2けたの後、3けた×3けたを提示したり、比の学習において、身の回りのものから、「黄金比」を見つけたりする学習です。

社会科においては、次の三つの意味があると考えられます。

一つ目は、「まとめる」です。分かったことを内容の構造や思考の流れによって整理し、単元を貫く問いに対する現時点での答えをまとめ、表現する学習です。これがよくいわれる「学習内容の再構成」です。例えば、3学年の「わたしたちのくらしと商店」の学習においては、スーパーマーケットと地域の個人商店を調べて分かったことを、対比表や〈資料1〉のような「ベン図」にまとめて比較し、それぞれの商店の持つよさを生かした経営戦略をしていることを、新聞、パンフレット、ポスターなど、子どもがし

たい方法で表現する学習が考えられるでしょう。このあたりの学習・活動は、総合的な学習とのリンクを考えて展開すると、さらに幅広い学習にできるはずです。

二つ目は、「広げる・深める」です。単元を通して、一つの教材事例で見えてきた社会の有り様とその考え方を、他の事例に適應させたり、逆の事例と出わせて問い直しをしたり、未来を展望させたり



する学習です。例えば、先般提案した5学年の「わたしたちのくらしと工業生産」のように、「流れ作業」も、そこから「セル生産」への転換も、よりよいものを生み出し続ける力（＝イノベーション）が活かされていることに気付いた上で、マツダの「クリーンディーゼル開発」もよりよいものを生み出し続けていることを適應させてとらえ、それをもとに、今後の日本の工業生産を展望する学習が考えられるでしょう。この場合、単元を貫く問いの上に、「いかす」ための問いを設定することも考えられるでしょう。この問いは、単元を貫く問いとは別のものではなく、探究をさらに広げたり、深めたりするものとなるのです。

三つ目は、「活用する」です。学習した方法や見方・考え方を生かして、次の学習を展開する場合です。例えば、4学年の「特色ある地域の人々のくらし」において、一つ目の事例地で、ある産業が盛んなわけを、「自然・地形」、「気候」、「歴史」、「人」など、条件的に考えた学習方法を活用して、二つ目の事例地でも同じように、その地域の産業が盛んなわけを条件的に考える学習展開が考えられるでしょう。この場合、いくつかの事例地を子どもに選択させ、子ども自身に調べ、考え、まとめさせる展開も考えられるでしょう。

「いかす」は、教科書にも示されていることから、全国的な動きであると同時に、市小社研の授業づくりの売りの一つでもあります。その上、先生方一人一人の創意工夫と発想で、いろいろな学習活動が考えられます。あまり難しく考えず、ダイナミックに展開してみてください。

いよいよ、本時案づくりに突入です。本時案は、公開授業そのものであり、一字一句参会された先生方にさらけ出すことになります。多くの先生のいろいろな視点と見方で検討していきたいと思います。

今回は、「協働的な協議のための授業分析」についてお話ししたいと思います。前回にもお話ししましたが、全国大会に向けてだからというわけではありませんが、教育活動も授業づくりも、「信頼」し合える教師集団全体で進めてこそ、実を結ぶのではないのでしょうか。（「信頼」し合わないと、共に意見交流できませんから。）ぜひ、できることから取り組んでいきましょう。よろしくお願ひします。